



●発行日／平成18年9月 ●発行／厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」班 分担研究者 佐藤功
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター 仙台市宮城野区宮城野2-8-8 TEL022-293-1111

はじめに

1年ぶりにニュースレターの発行となりました。動態調査では7月初めで、東北の非血友病の感染者は250人を超え、全国と同様右肩上がりが増加傾向が続いています。
各県の様々な取り組みも記事に盛り込みました。拠点病院紹介は最近患者急増中の青森県立中央病院です。今後ともHIV感染症の診療レベルの向上、HIV感染拡大防止活動など推進したいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

平成18年度東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議

国立病院機構仙台医療センター 統括診療部長 佐藤 功

東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議は平成18年6月21日(水)、岩手県盛岡市(マリオス)で開催されました。66名の参加者(内岩手県が32名)でありました。初めに、仙台医療センターの菊地副院長から、「最近東北地方においてもHIV感染者が増加している。今日の講演で学んだことを取り組みに役立てて欲しい」とのご挨拶がありました。特別講演では国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター医療情報室長の立川夏夫先生からHIV/AIDS最近の治療の工夫という演題で、1. HIV感染症の治療について 2. 副作用の問題について 3. 耐性発現について 4. 今後発売される新薬について。5. いきなりエイズ発症等について御講演を頂きました。次いで国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター患者支援調整官の池田和子さんからHIV/AIDSケア up to date の演題名で「疫学、若者での性のネットワーク化、予防対策の重要性、患者教育、服薬、患者支援体制」等のお話を頂きました。

次に岩手県の取り組みについて、医療の立場から

1) 岩手医科大学医学部血液内科教授 石田陽治先生から「岩手医科大学におけるHIV感染症診療の現状、予防活動(学校教育について、生と性及びエイズ教育を考える会との活動、指導者講習会等熱心な取り組みについて)」のお話を伺いました。2) 岩手県立中央病院副院長の武内健一先生に「岩手県立中央病院におけるHIV診療の現状と思い出に残る症例等について」のお話を頂きました。行政の立場からでは岩手県保健福祉部保健衛生課、健康予防担当 技術副主幹兼主査 藤尾 修氏から岩手県のHIV/AIDS患者数の推移、エイズ対策事業(予防普及啓発、人材育成、相談HIV検査、医療体制の整備、



HIV対策推進体制) についてのお話がありました。最後に原告団からの連絡としまして「治療の歴史的な経緯で困難さが現在、現れている。今後とも対応宜しく御願いたい。イベントなどでは行政、医療関係者に加えて、患者を交えた取り組みを御願いたい。」等でした。最後に国立病院機構盛岡病院長の山口一彦先生が、おわりのご挨拶をされ終了しました。

今回はいつもに増して熱心に討論され、大変有意義な会議となりました。

平成18年度東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議

(プログラム) 平成18年6月21日(水)13時～ マリオス 18階 188会議室
I あいさつ

国立病院機構仙台医療センター副委員長 菊地 秀

II 講演

1. 「HIV/AIDS最近の治療の工夫」

国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター
医療情報室長 立川 夏夫

2. 「HIV/AIDSケアup to date」

国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター
患者支援調整官 池田 和子

3. 「岩手県の現状と取り組み」

～医療の立場から～

1) 岩手医科大学医学部血液内科教授 石田 陽治

2) 岩手県立中央病院副院長兼診療部長 武内 健一

～行政の立場から～

3) 岩手県保健福祉部保健衛生課
健康予防担当 技術副主幹兼主査 藤尾 修

III 地域原告団連絡事項

IV 終わりに

国立病院機構盛岡病院長 山口 一彦



平成17年度東北ブロック各地域の取り組み

平成17年度の東北各地域での取り組みをまとめました。東北ブロックでは「東北HIV診療ネット」(各県2～3施設のHIV診療担当医師を世話人とした組織)を立ち上げ、活動を行っております。

【青森】

- 平成17年7月2日 青森土曜の会の集い
- 平成17年9月6日
青森県HIV迅速検査導入に向けての事前研修会
(青森県健康福祉部主催)、於：青森市、講演「青森県HIV即日検査導入に向けてーHIV即日検査におけるカウンセリングについてー」講師 大館市立総合病院 高橋義博
- 平成17年10月12日
青森県エイズ予防対策情報交換会議
- 平成18年1月13日
エイズ/HIV感染症出張公開セミナー、仙台医療センター HIV診療スタッフによる出張講演会、於：弘前大病院

【秋田】

- 平成17年9月9日
第3回秋田県HIV治療研究会、秋田市・秋田ビューホテル、一般演題：HIV感染の発見動機 秋田赤十字病院 内科 三浦一樹 特別講演：中高生の性意識の実態とこれからの予防教育のあり方について～テラーメイドの予防対策/教育の導入～講師 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野 助教授 木原雅子
- 平成17年10月25日
平成17年度エイズ教育(性教育)研修会ー若者をエイズから救うためにー(秋田県教育庁主催)、於：秋田県総合教育センター、講演『学校性教育におけるエイズ教育の留意点』講師：大館市立総合病院 高橋義博
- 平成17年12月4日 秋田県世界エイズデー
希望者に無料・匿名で個別相談及びHIV抗体迅速検査

【岩手】

- 平成17年8月27日 みちのくクエスト
- 平成17年12月7日
講演会①「アフリカでのHIV/AIDS患者の看護を経験して」講師：岩手医科大学看護師 上平明美
②「アメリカ・アフリカ南北エイズ事情」講師：コロンビア大学附属セントルークス・ルーズベルト病院 内科リウマチ学教室 稲田頼太郎、於：岩手医科大学歯学部講堂
- 平成18年2月26日
岩手レッドリボンネットワークプロジェクト(主催：IWATE:生と性及びエイズ教育を考える会)、於：エスポワール岩手、①HIV即日検査②HIV啓発活動報告③講演発表 講師：岩手医科大学細菌学講師 吉野直人

【山形】

- 平成17年12月12日
講演会「HIV感染症/AIDSへのアプローチ～特にHAARTについて～」於：山形県立中央病院、講師：仙台医療センター 伊藤俊広
- 平成17年12月22日
講演会「AIDSの話題について(サンフランシスコ見聞録)」
於：山形大学医学部臨床研究棟第5講義室 講師：米沢市立病院内科科長 八幡芳和

【宮城】

- 平成17年5月23日
仙台医療センター地域医療研修センター講演会「感染症治療の原則」講師：(株)サクラ精機・感染症コンサルタント 青木 真
- 平成17年7月6日
エイズリリーフセミナー(東北大感染症呼吸器内科)



- 平成18年1月28日
第2回エイズと日和見感染症研究会（東北大感染症呼吸器内科）
 - 平成17年6月22日
東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議
於：秋田市・秋田県総合保健センター 協力：秋田大学第三内科
講演：「HIV / HCV重複感染の治療について」
エイズ国立国際医療センター ACC病棟医長 菊池 嘉
発表：（仙台医療センター症例報告）仙台医療センター内科医長 伊藤俊広
（秋田県の取り組み）秋田県健康福祉部健康対策課、秋田大学第三内科、大館市立総合病院
 - 平成17年6月24日
東北エイズ/HIV看護研修“基礎編”
 - 平成17年6月25日
HIV/AIDS Case Study～初級・中級・上級編～
*エイズ財団主催研究成果発表会
 - 平成17年8月28日
宮城のHIV検査を考える学習会
*厚科研・宮城県臨床検査技師会協力
 - 平成17年10月30日
東北エイズ/HIV臨床カンファレンス *厚科研・地域医療研修センター共催 特別講演：「エイズに合併する寄生虫症」国立国際医療センター研究所 部長 狩野繁之、東北ブロック内症例7演題発表
 - 平成17年11月21日
東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議
 - 平成18年1月27日
東北エイズ/HIV看護研修
発表：「HIVの基礎」佐藤功（統括診療部長）「HIV/HCV重複感染について」
千田信之（総合内科部長）「外来看護」菅原美花（看護師）「病棟看護」伊藤ひとみ（副病棟師長）、於：仙台医療センター
 - 平成18年1月28日
東北AIDS/HIV心理・福祉研修会
（歯科・薬剤師合同特別講演）「HIV感染症による長期療養者の課題～今後の支援のあり方を考える～」
講師：桃山学院大学社会学部教授 小西加保留
「HIVカウンセリングの実際～心理支援のいろいろ」講師：千葉県派遣カウンセラー石川雅子、東京都派遣カウンセラー神谷昌枝
 - 平成18年1月28日
東北AIDS/HIV歯科診療研究会・協議会
 - 平成18年1月28日
東北AIDS/HIV薬剤師研修会「抗HIV薬と服薬援助」講師：大阪医療センター調剤主任 吉野宗宏
「HIV診療における薬剤師の関わり」講師：名古屋医療センター薬剤科 奥村直哉
 - 平成18年2月6日
山形県立中央病院より薬剤師2名の実地研修受け入れ（仙台医療センター）
 - 平成18年3月11日
東北HIV診療ネットワーク会議
【診療ネット参加施設】14施設：青森県立中央病院、弘前大病院、秋田大病院、大館市立病院、山形大病院、山形県立中央病院、岩手医大病院、岩手県立中央病院、国立病院機構西多賀病院、東北大病院、福島医大病院、太田西ノ内病院、磐城共立病院、仙台医療センター
- 【福 島】**
- 平成17年7月16日 みちのくクエスト、郡山市熱海
 - 平成18年2月3日
HIV講演 於：太田看護専門学校 講師：太田西ノ内病院 松田信
 - 平成18年2月14日 福島県エイズ対策推進協議会（会長 松田信）、於福島県庁
 - 平成18年3月22日
福島県エイズ拠点病院情報交換研究会



海外研修～サンフランシスコ研修を終えて～

国立病院機構仙台医療センター 外来看護師 疋田 美鈴

平成18年1月14日から29日までHIV海外研修に参加して、サンフランシスコという非日常の中で、HIV・AIDSについて勉強することは自分が想像していたよりもインパクトの強いことが数多くあったように思う。

中でも、特に印象に残ったことは、HIV外来を長年行っているカイザー病院での受診の流れ、各部門との関わりです。患者は医師の診察後、看護師兼ケースマネージャーのところへ行き、必要に応じてソーシャルワーカーや教育担当、栄養士、薬剤師のところへ行きます。初診の患者について受診するところを見学させていただいたが、どこに行くにもスタッフが次のコメディカルの方への情報シェアを行い、患者が外来で一人になることがないように配慮されていた。又、日本ではスタッフの役割が処方では医師、薬に関しては薬剤師のように狭く線引きされているが、カイザー病院では線引きの幅が広く、オーバーラップしているところが多いと感じた。HIV看護を長年してきたメンバーだからこそ、そのようなチームワークが出来ているのだろうと思われた。

HIV・AIDSは現在慢性疾患になりつつある。慢性疾患を持った人たちが病気とうまくつき合っていくためにセルフマネジメントが重要になってくる。セルフマネジメント（自己管理）ということで、自分なりの目標や問題解決法などを自らが決めていき、行動につながることで自信へとつながる。私達は様々な治療法、問題解決法を患者が生活の中に取り入れることが出来るように助ける必要があることを学んだ。

行動変容を支援するピア・カウンセリングという方法がある。ピアとは仲間・同志という意味で、その人（患者）が問題を持っているのであれば、その人は一番よくその問題について知っている。解決する力も持っている。様々な問題があるので今は解決する力が抑えられているため、その手助けをしましょうという方法で、治療ではなく自己決定の中で進めていく。患者が今どの立場にいるのかを把握し、必要に応じて情報を提供し、聞き上手になることで相手は気持ちをうち明けるという考えである。

又、カウンセリングのスキルとは、日々、慌ただしい時間の中で患者と接することが多く、はい、いいえのクローズドクエスションによる質問が多かったが、5W1Hの使用により、開かれた質問をすることで多くの情報を得ることが出来ることを学んだため、日々の仕事の中で取り入れ、患者の思いをきちんと捉えることができるように、自分なりに再学習していく必要があると思う。

当院のHIV外来業務での役割は、今はまだ分からないことがほとんどだが、外来業務の流れ、各部門の役割を把握し、患者の情報を各部門でシェア出来るように、又、入院時には病棟スタッフとも情報交換が持てるような関わりを少しでも学んできたことを活かしながら取り組んでいきたい。





東北AIDS/HIV看護研修

国立病院機構仙台医療センター 外来看護師 疋田 美鈴



平成18年6月9日（金）に、本年度1回目の「東北HIV看護研修」が当院で開催されました。

東北地区の拠点病院では、AIDS/HIV患者の診療経験が少ないところも多いため、今回も例年同様に基礎的な講義中心の内容で行いました。東北各地から様々な立場の看護師が18名参加しました。また、院内の教育にも力を入れていこうと考え、事前に新採用者を中心に参加者を募集しました。各師長さんにご配慮いただき、又、東北薬科大学の実習生の参加もあり、あわせて60名程の参加となりました。

高橋看護部長より、「東北地方でも年々患者数が増加している傾向にあるため、東北全体の拠点病院のHIV看護の質向上をはかりたい。」と挨拶がありま

した。その後、当院の各スタッフからの講義を行いました。症状・治療・患者の心理・看護等、わかりやすい内容でした。1日かけての長い講義でしたが、ディスカッションでは活発な意見交換があり、充実した研修となりました。

東北地方でも、穏やかではありますが患者数が年々増加傾向にあります。今後もHIV感染症に少しでも興味を持ち、関われるスタッフが増え、看護の質向上につながることを期待し、看護研修を継続していきたいと思えます。

- 平成18年度 第1回東北AIDS/HIV看護研修**
 (プログラム) 平成18年6月9日(金)9時30分～
 国立病院機構仙台医療センター 大会議室
- ・オリエンテーション
 - I はじめに
 国立病院機構 仙台医療センター 看護部長 高橋 滝子
 - II 講義 1
 「HIV感染症の基礎」
 国立病院機構 仙台医療センター統括診療部長 佐藤 功
 - III 講義 2
 「服薬指導」
 国立病院機構 仙台医療センター薬剤師 小住 好子
 - IV 講義 3
 「AIDS/HIV感染者の心理」
 国立病院機構 仙台医療センター HIV外来カウンセラー 佐藤 愛子
 - V AIDS/HIV感染者の看護
 - 1. 「病棟看護」
 国立病院機構 仙台医療センター西5階病棟 副看護師長 伊藤ひとみ
 - 2. 「外来看護」
 国立病院機構 仙台医療センター 看護師 菅原 美花
 国立病院機構 仙台医療センター 看護師 疋田 美鈴
 - VI ディスカッション

受検者本位のHIV検査についての交流研修会～受検者支援の質の向上を考える～

平成18年6月18日（日）仙台医療センターを会場に、「仙台市」「宮城県」「東北HIVコミュニケーションズ」と厚労省エイズ対策研究事業「男性同性間のHIV感染対策とその評価に関する研究」(分担研究者：仙台医療センター統括診療部長 佐藤功)の共催で、「HIV抗体検査（エイズ検査）」に携わっている方々を対象にした交流研修会を開催しました。

即日（迅速）検査をおこなう保健所も増えてきており、受検者も通常検査に比べ増加傾向にあります。この交流研修会は、受検者の立場に立って「検査を

受けやすい環境」を考え、検査にかかわる様々な職種・担当者がその経験をシェアし支援技術を向上させ、一般の方々がより受検しやすい体制を作っていくという意図で開催されました。

当日は仙台市内の保健師を中心に30名近くが大阪市和泉保健所の保健師による発表や、検査時のカウンセリングワークショップ、ディスカッションを通じ受検者支援について情報交換を行いました。各関係機関・職種との連携という観点からも大変有意義な会となりました。



文献紹介

◆ Sexual Transmission of HIV Infection

Return to Medscape coverage of: 13th Conference on Retroviruses and Opportunistic Infection/ Sexual and Vertical Transmission of HIV Infection
Sexual Transmission of HIV Infection

Thomas C Quinn, MD

●HIV感染者は流行開始以後全世界で7500万人以上となり、3500万人が死亡した。現在4000万人のHIV感染者が生存している。HIV感染者の中で80%が性感染者である。

●HIV感染の確率は血液や精液のウィルス量、男子割礼、潰瘍性STDの病期、遺伝子のハプロタイプ、ウィルスのサブタイプ、他の生物因子の粘膜免疫反応のレベルと関連している。

●アフリカ、アジア、北アメリカのMSMにおける疫学研究で、割礼の男性は非割礼の男性より、50%以上HIV感染が減少する。割礼した男のHIV感染の生物学的低下は包皮内のランゲルハンス細胞や他の標的細胞のHIV吸着に負うところ大きい、そして非割礼男性のひっかけ傷、擦り傷により包皮の感受性が高まり、STD感染を起こし、それに続きHIV感染も高まってしまふなど述べられている。

男性割礼は女性のHIV感染やトリコモナス、細菌性膣炎などの一部のSTDの感染リスクを下げる。

●ARTは男性、女性の性器分泌液のHIV量を低下させるが、全ての抗レトロウィルス剤が有効濃度に達しているとは限らない。多くのPI剤は性器分泌液中に有効な濃度には達していないが、テノホビルやエムトリシタビンのような薬剤は性器分泌液の中に高く濃縮されていた。

●活動性のHSV-2感染は血漿HIV-1量と性器分泌液へ流出を増加させる。ヘルペスウィルスはHAART開始により生殖器分泌液で増加した。

●抑制されていた血漿HIVが梅毒感染により増加する。梅毒感染を繰り返しているMSMにおいてHIV抗体陽性者が多かった。ハイリスクのMSMに効果的な検査、カウンセリング、予防戦略が重要である。

●Sifakisら：ボルチモアのMSMにおいてHIV感染率が高く、特にアフリカアメリカンで高かった。Hightowらの調査は北カリフォルニアの学園でHIV感染が始まっており、インターネットはHIVやSTDの感染性の危険な行動の呼びかけるフォーラムとして使われる非常に危険な場である事を示した。

●HIV感染の急性期にはHIVの感染率は高い。Picherらは急性期のHIV感染者に性交渉した陰性の人24人中8例がHIV陽性となり、その中3人が1回目の性交渉でHIVに感染したと述べている。

●Sowら：精液のHIV-RNA量はHIV-1に比較してHIV-2において少しばかり低い。

HIV-2感染者の精液の中の低いウィルス量はHIV-1と比較して血漿のHIV-2の低い量と関連し、一致している。

●NattermannらはHIV-1感染はインターフェロン γ 低産生遺伝子型と比較してインターフェロン γ 高産生遺伝子型の増加頻度と関連する事を発見した。IFN γ は強力な抗ウィルス作用を持ったサイトカインであるけれども、IFN γ が単球のCCR5発現を増やすことが示されていることにより説明されるかもしれない。これは粘膜のHIV-1のメジャーコレセプターであるので、粘膜のCCR5の発現を高めることは、性交時にHIV感染の細胞の感受性を高めるかもしれない。

●Phililipsは疫学的モデルを開発し、過去数年間薬剤耐性感染の発現率が増加し、2002年には13%までに増加したが、2010年には4から5%までのレベルに減少するかもしれない。この減少はARTによりウィルス量が抑制されている事によると考えている。

●英国とオランダのアムステルダムでのHIVに感染した男性における最近の流行の中で、肝炎Cウィルスの性感染の証拠を示した研究がある。Dantaらはジェノタイプ1の急性HCVの111人のHIV-1陽性のMSMを見出した。HCVを感染していないHIV感染



者と比較して、重複感染者は12ヶ月前、コントロールより多くのパートナーがいる。

CoutinhoらはHIV感染していないMSMと比較してHIV陽性のMSMのHCV感染率は高いことを示した。

■第17回レトロウィルス、日和見感染症カンファレンスの報道をMedscapeが再掲載したもので、HIVの性感染についての記事です。少しでもHIV性感染の拡大阻止をしたいものです。

仙台医療センター HIV診療スタッフ

18年度はこのメンバーが各部門を担当いたします。

HIV診療・看護・服薬などについてご質問等ございましたら、ご連絡をお願い致します。

- ◆専門外来(木曜日)診療担当医師……佐藤 功(統括診療部長)
 - ◆専門外来(月曜日)診療担当医師……伊藤 俊広(内科医長)
 - ◆服薬援助担当薬剤師……小住 好子
 - ◆外来看護師長……高橋 美鈴
 - ◆内科病棟看護師長……多田 恭子
 - ◆ケースワーカー……小倉 美緒
 - ◆専門外来担当看護師……疋田 美鈴
 - ◆外来副看護師長……菅原ひろ子
 - ◆内科病棟副看護師長……伊藤ひとみ
 - ◆専任カウンセラー……佐藤 愛子
- (診療に関するお問い合わせ等:022-293-0668)

カウンセリング室からの手紙

仙台医療センター HIV外来専任カウンセラー 佐藤 愛子

昨年患者さんに協力していただき、「カウンセリングについてのアンケート」を実施し、患者さんの心理的状況、カウンセリングに関して日ごろ考えていること、感じていることなどを記入していただきました。カウンセラーにとっては、患者さんから自分の通信簿をつけていただくような気分で、正直アンケートの開始当初は、カウンセリングよりもアンケートを依頼するほうにエネルギーをさいているような感じでした。

そのアンケートの項目に「病気のことを誰かに話したでしょうか」という項目があり、誰かに話したという人は74%、誰にも話していないという人は26%でした。話したという人でも13%は病気についていろいろ話せるというのではなく、感染したことを告げたにとどまっています。また誰にも話していないとした人の26%のうち、11%の人は感染がわ

かってから10年以上経過しています。その間患者さんは自分ひとりで病気と向き合ってきたのです。他の身体的な病気も精神的にも様々な困難さを与えることが指摘されてきていますが、HIV感染ではある患者さんが言われたように、「重い病気なのに人に言えない病気」と考えてしまいがちです。エイズをめぐる医学的・社会的環境は進歩、改善されてきているとはいえ、いまだ周りから支援の得られにくい病気であるという点は大きく変わってはいないようです。アンケートの自由記述でも、「病気のことに話せる人がいないので、ここで話すと、すつとする」という言葉がありました。一方カウンセリングについて厳しいご意見もいただきました。カウンセラーとしては、どちらも大事な言葉として受け止めています。



拠点病院紹介 青森県立中央病院のHIV診療

【沿革】 青森県立中央病院は青森市に位置する許可病床数710床、24の診療科よりなる総合病院です。病院の歴史は50余年あり、戦前には弘前大学医学部の前身である青森医学専門学校の付属病院でもあり、創立時から現在に至るまで、本県医療の中心的な役割を担ってきました。

【HIV診療】 昭和62年度から診療実績があり、平成11年エイズ拠点病院指定を受け、東北地方の中では豊富な臨床経験を有する医療機関の一つでもあります。診療圏は県内全域となっていますが、疾患の性質と現状での頻度の少なさから居住地の医療機関で診療を受けることが必ずしも容易ではないという背景があるためです。

【外来診療】 HIV診療の窓口となる診療科はリウマチ・血液内科となっており予約外来から夜間・休日外来まで柔軟に対応しています。担当医師は従来2名(兼務)でしたが次年度には4名(兼務)の体制に拡充していくことできめ細かな対応が可能となるものと考えています。個人情報保護法に最大限配慮したプライバシー保護となるような診療空間となっています。診療をうまく軌道に乗せるために60~90分の時間をとったインフォームドコンセントを初診後2~3数回行っています。

【入院診療】 HAART導入・変更と日和見感染の治療が主なものです。可能な限り家族に対するイン

フォームドコンセントを行い、家庭内に落ち着いた闘病環境を整えることで長期的な診療の質が確保されるものと考えています。感染拡大阻止の観点からは日常生活の見直しが必要となる場合も多く、いくつかのNPOを紹介して患者さんの精神的なサポートになるように工夫しています。最近では日和見感染死亡はほとんど経験することは無くなるほどHIV診療は進歩しました。

【院内の診療連携】 全診療科対応の原則が守られ、緊急的な状況に対しても臨床検査や各診療科の連携は迅速に行われています。

【院外の診療連携】 HIV陽性の症例数は増加傾向にあります。昨年度即日検査の導入された保健所との連携も極めてスムーズに行われています。必要に応じて、仙台医療センター、国際医療センター、駒込病院の助言を仰ぎつつ診療の質の向上に努めています。

【今後に向けて】 近年HIV感染症のイメージは大きく様変わりしつつあり、コントロール可能な慢性疾患となりつつあります。こうした現状下では患者さんの精神的な側面をいかに現実に則した形でサポート出来るかということが予防医学的な見地からも重要と思われ、専任的な看護師の育成と臨床心理士の活躍の場を確保したいと考えています。

(文責 リウマチ・血液内科 副部長 久保恒明)

ホームページのご案内

● 「東北ブロックAIDS/HIV情報ページ」

<http://www.tohoku-hiv.info/>

* 仙台医療センター <http://www.snh.go.jp/> トップページにバナーがあります。また、「当院の診療機能」や「診療科紹介：血液内科」などからもリンクされています。

* Yahoo!・MSNサーチの場合……エイズ医療、エイズ東北、エイズ仙台 で検索

〈東北ブロックHIVニュースレター連絡先〉

◆このニュースレターは厚科研費の助成を得て、東北拠点病院の活動状況およびAIDS/HIVに関する情報を提供することを目的としています◆
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター

内科 佐藤 功 (e-mail: satoui@sendai.hosp.go.jp) 鈴木 智子 (e-mail: tomokos@sendai.hosp.go.jp)

〒983-8520 仙台市宮城野区宮城野2-8-8

TEL 022-293-1111 FAX 022-291-8114

東北ブロックAIDS/HIV情報ページ：<http://www.tohoku-hiv.info/>